

事業・研修計画書

海田町教育委員会生涯学習課 久保隆聡

平成 27 年度生涯学習振興・社会教育関係職員等研修
【施策立案研修】演習シート

1 事業・研修名

平成 27 年度“未来の”まちのおせっかいさん養成講座

2 対象者と目指したい姿（どのような方を対象として、どのような人材育成を目指すのかを記入する。）

■ 対象者

主に現役子育て世代（20代～40代）

- ① 平成 25 年度・26 年度「未来のおせっかいさん講座」参加者（※1 4 取組概要で補足）
- ② 新規募集

■ 趣旨

PTA や自治会などの各種地域活動や、様々なミッションを持つまちづくり活動などの中心を担う人材「おせっかいおじさん・おばさん」を養成するため、現役の子育て世代である「“未来の”おせっかいおじさん・おばさん」を対象に、現役のおせっかいおじさん・おばさんや、まちづくりの中核を担っている町のスーパーおせっかいおじさん・おばさんから助言を得ながら、現役子育て世代目線でまちづくり活動を企画し、実施する。この講座を通じて、①地域活動・まちづくり活動における企画力の向上、②ファシリテーション能力の向上、③地域人材との社会関係の構築を主な目標とする。

また、この講座は、人材養成の一環として「まちづくり OJT」と位置づけて実施する。このため、公民館及び教育委員会が全面的にバックアップする一方で、行政（公民館）活動であるが故の一定の規制を行うことを前提に進める。

■ 実施形態

生活環境の変わりやすい子育て世代には、自主自立を原則とする組織の維持は難しいこと、これまで町が実施してきた同様の養成講座から発足したいいくつかの組織が、活動の継続性に課題を抱えていることを踏まえ、自主自立した組織を目指して企画を進めるのではなく、原則、単年度の活動で、出入りや“卒業”が想定される「部活型」の形態で、長期間継続して実施していくことを見据えて講座を実施する。このため、今年度は、平成 25 年度・26 年度のメンバーのうち、継続の意志を示している人及び新規の参加者を募集して、原則新たな取り組みとして実施する。上記のとおり、この講座自体は「まちづくり OJT」との位置づけであるため、卒業後の「自分たちの活動」をイメージしやすいよう支援する。

■ 参加者の状況に合わせた目標設定

新規の参加者には、自主企画を実施する過程を通じて企画力を高めてもらうことを主たる目的とする。継続の参加者については、それまでの経験を踏まえ、企画を推進する力や、メンバーや関係者を巻き込んでコーディネートしていくファシリテーション能力や、周囲の能力を引き出していくファシリテーション能力を高めることを目的とするなど、参加するメンバーのこれまでの経緯を考慮した目標設定を行う。

また、全体の企画を通じて、既存の地域活動やまちづくりを実施している団体とふれあう機会を設け、地域における社会関係性の向上を狙う。

3 取組の趣旨・ねらい（地域の現状、人材育成をめぐる地域や職場の現状等を踏まえて記入する。）

■ 地域の現状

本町は、広島市中心部から距離的に近く、交通の利便性に恵まれていることから、社会増減の多い町であり、地縁的な関係性が希薄になりつつある一方で、子育て・環境・歴史文化など多様なテーマでまちづくり活動が行われている。ただし、地縁型組織及びテーマ型組織ともに人材や活動の固定化・マンネリ化に課題を抱えている。

■ 公民館の現状

現状、固定的・限定的な自主講座の活動の場、貸館としての利用が中心になっており、この講座を通じて長期的な視点で人材育成を続けることで、公民館を地域活動・生涯学習・まちづくりの拠点とすることを目的とする。また、住民団体の活動拠点である一方で、公の機関でもある性格を活かして、両者の協働を導く「調整能力」を十分発揮できる機関とすることを目的とする。

4 取組の概要 ※1

本事業は、地域活動・生涯学習活動・まちづくり活動の拠点である公民館が果たすべき役割を模索するため、文部科学省が実施した「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の採択を受け、平成25年度、26年度の2年に渡って実施した事業の継続事業であり、平成27年度から、文部科学省の委託事業ではなく、海田公民館単独の主催事業として再スタートする事業である。

平成25年度は主に地域の情報誌の製作、平成26年度は主に情報誌の追録版の製作と自主企画「逃走中」(小学生対象)を実施した。当初の計画では、活動後、自主自立した組織化をはかることを目指していた。

5 実施・評価計画

日程 (回数・月日・時間)	目標	内容	評価項目
第1回WS 9月25日	参加メンバーが活動の趣旨を共有し、建設的で有意義な活動となるようスタートを切る	メンバーの顔合わせ/これまでの活動の紹介/メンバーの意識の引き出しと調整/今年度の実施内容の方向性の決定	①事業の趣旨を明確に伝えることができたか ②メンバー同士の関係性を構築し、取組を進めるにあたって前向きな雰囲気をつくられたか ③外部ファシリテーターとの意志疎通が十分とれていたか
第2回WS 10月16日	メンバーの一定の意識統一と企画の具体化に向けた議論	今年度の活動の基本計画の検討/役割分担	①メンバーの意志統一がはかれた基本計画となっているか ②メンバーの能力が活かされ、かつ納得のいく役割分担となっているか
第3回WS 11月	企画の具体化と参加者募集	自主企画への参加者募集方法の検討/協力者との調整	①対象者に効果的に周知できる募集方法となっているか ②企画内容に対して適切な協力が得られる体制を整えられたか
第4回WS 12月	当日の段取りの最終調整	外部協力者を含めた関係者全員の段取りの調整と確定	①無理のない適切な計画となっているか ②十分な準備ができる体制が整っているか ③外部協力者に明確に意図が伝わっているか ④外部協力者の協力内容が明確か
企画の実施 2月	企画の実施	自主企画の実施	①十分に準備ができていたか ②募集・協力依頼は適切であったか ③参加者の対象・人数は適切であったか

			か
本年度の取組の反省	企画の反省／全体を通じた反省	実施した企画についての反省／講座全体を通じた反省と次年度への引継ぎ事項の取りまとめ／外部ファシリテーターとの反省	①自主企画の地域にとっての開催意義は適切であったか ②自主企画の運営体制は適切であったか ③講座全体を通じて当初の目標（6 評価に係る項目）が達成できたか

※ 各回 WS の間には、自主的な活動で準備を行う。

※ 具体的な企画は参加メンバーの意志を尊重して内容を検討する。

6 評価に係る項目

（計画を実施することによって見込まれることを、できるだけ具体的に記載する。）

① 新規メンバー

広く地域を対象に企画を実施することを通じて、地域活動における企画の段取り、企画力が身につく

② 継続メンバー

企画を継続して実施することで、企画力及び企画を運営するための能力や、他者を巻き込んで企画を進めるファシリテーション能力が身につく

③ 公民館

- ・ 講座をコーディネートすることを通じて、地域人材を知ることができる
- ・ 地域づくり、まちづくり、生涯学習の拠点として必要な機能について具体的に検討することができる

④ 地域

- ・ 新しい発想の企画を通じて、既存の活動の再活性化がはかれる

⑤ 今後の講座実施に必要な基本的事項の確立

- ・ 公民館の予算編成時期、活動開始時期、行政年度（4月～3月）を踏まえた「おせっかい年度」の検討
- ・ 公民館講座としての趣旨の進化
- ・ OB と現役の協力体制の構築

7 実施組織体制

■ 海田公民館及び海田東公民館：主催者

■ 海田町教育委員会事務局生涯学習課：総合調整

8 実施スケジュール
平成27年度～28年度

項目	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
① 外部ファシリテーターとの打ち合わせ												
② これまでの参加者との意見交換				11								
③ 新規参加者募集												
④ 第1回WS				25								
⑤ 第2回WS					16							
⑥ 第3回WS												
⑦ 第4回WS												
⑧ 企画実施に向けた準備												
⑨ 自主企画の実施												
⑩ 翌年度に向けての反省												
⑪ 次年度の活動の検討												

※枠の大きさや矢印は、必要に応じ変更してください。

※単年度にとどまらず、複数年の計画としても構いません。